

滋賀県・湖東の歴史的建造物をめぐる見学会

平成 26 年 6 月 7 日（土） 担当 事業委員会委員

あいにくの雨の朝、9：30にJR安土駅に集合。タクシーで安土城跡に向かいました。安土山麓に到着し、目の前に予想を超える急こう配の階段が現れました。安土城大手道です。平成の発掘を経て環境整備され、道幅約6mの階段が約180mに渡って直線的に続いています。



安土城は織田信長公が天下統一を目標に天正7年（1579年）標高199mの安土山に3年の歳月をかけて、我が国最初の天守閣をもつ安土城を築城した。岐阜城よりも京に近い利便性があり、北陸・東海の要所であった。天守跡は背丈ほどの高さの石垣に囲まれた東西・南北それぞれ約28mの台地。今は礎石が1.2mおきに整然と並ぶだけであるが、この部分は天守の穴蔵（地階部分）にあたり、その上にさらに大きな天守がそびえていた。五層七階（地上6階地下1階）の高さ33mの木造高層建築は我が国で初めてのものであった。内部は信長公の御用絵師、狩野永徳の豪壮な障壁画

や装飾を配していた。



奥田副委員長に資料を基に解説いただきました。

安土山を下山し、安土城天守・信長の館を見学いたしました。1992年のスペインセビリヤ万博の日本観に原寸復元された安土城天守の5層・6層が展示され、万博終了後、安土町が譲り受け新たに復元された部分を含め、ドーム内に保存展示されています。



その後、タクシーで近江八幡の西勝酒造酒遊館での昼食に向かいました。近江牛・琵琶湖の幸を味わった後、ヴォーリズ建築見学の為、近江兄弟社学

園内のハイド記念館・教育会館に向かいました。

ハイド記念館では辻館長様に詳しくご説明頂きました。



<ウィリアム・メレル・ヴォーリズの足跡>

1905年（明治38年）24歳で、近江八幡商業高校に英語教師として来日。ヴォーリズのキリスト教の布教活動と人気の高さは仏教との対立を生み、わずか2年で教師の職を解かれてしまいました。彼は一旦帰国し、翌年、建築家レスター・チャーピンと共に再来日し、商業高校を卒業したばかりの吉田悦蔵青年と3人で近江兄弟社を興しました。

キリスト教伝導のかたわら生活の糧を得るために建築設計の仕事をスタートさせました。彼は建築設計と、ハイド氏より製造販売権を得たメンソレータムで知られる製薬会社からの収益をもとに、キリスト教伝導とその主義に基づく社会事業、出版、医療、学校教育など多くの事業を行いました。近年、ヴォーリズ建築の評価が高まり、2000年（平成15年）、近江兄弟社幼稚舎も教育会館と共に有形文化財に登録されました。その際、幼稚舎を近江兄弟社の恩人であるメンソレータムの発明者ハイド氏一家の名をとってハイド記念館とされました。

<ヴォーリズの建築への想い>

建築というものは、優れた計画者の幻や熱心や経験と同時に、責任を分担する協力者の腕と頭と心が必要である。基本原理を知ることが絶対に必要である。たとえ建築主任であっても、新しい建築を引き受ける場合には、建物と敷地との釣り合いとかその家にすもうとする人の生活様式や職業などを理解するために十分時間をかけて研究しなければならない。そうでなければ、たとえ建築家の評判を高めるような壮大な建物を作ることができても、肝心の中に住む人は建築家の幻想の所産に過ぎない芸術作品のおかげで、自分らの生活や職業をその建物に合わせて調節せねばならないという不便な結果になってしまう。（ヴォー

リズ著「失敗者の自叙伝」より抜粋）



大変ハードでしたが、内容の濃い一日を過ごすことができました。

参加者の方々も大変満足されておられました。

事業委員会

和田浩茂